

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000199		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム野幌 1F		
所在地	江別市野幌代々木町56-9		
自己評価作成日	令和5年2月23日	評価結果市町村受理日	令和5年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvosyoCd=0191000199-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楽しくふれあって・・・、一緒に生きて・・・を体現できるよう取り組んでいます。
現在はコロナ禍で実施できていませんが、R5年度以降は雪のない季節は戸外に出て散歩。
現在はコロナ禍にて実施できていませんが、R年度以降は外食に出たり、戸外で花見や焼肉をします。
優しく暖かく利用者様を見守れるよう寄り添います。

職員は階で分けておらず、休みや感染対応等の突発事態でも全員顔なじみの職員で安心感を持てるようにしています。
現在はコロナ禍にて実施できていませんが馴染みのボランティアさんと歌を歌ったり、談笑します。
協力医療機関により健康管理体制が整っています。食事も管理栄養士の立てた献立で安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

商業施設や小中学校、情報図書館、消防署などの公共施設にも近いエリアにある2ユニットの事業所である。地域との相互交流は自肅中であるが、町内会役員と書面開催の運営推進会議や電話連絡を通じて定期的に状況を伝え、協力し合う関係が維持されている。外出や外食行事、家族との制限のない自由な面会もままならい状況下で、職員は利用者の心情に寄り添い、日々の生活を応援団のように盛り立て接している。法人の献立にアレンジを加えた人気のかき揚げ丼や汁たつぷりの麺ものや副食も香味良く整え、収穫祭に秋刀魚を炭火焼するなど、食を楽しむ支援に力を入れ、台所に立つ職員へ利用者の誰か彼かが声をかけたり調理する姿を見守るなど家庭的で温かい雰囲気である。体調、健康面に気を配り、職員も人的環境の一部として優しくノンバーバル的な関わりも行いながら利用者のBPSDの軽減に努めその人らしい生活を支えている。利用開始前にトラブルが多く見られた利用者では、本人の特性を理解する職員の熱心な関わりにより、仲良しの利用者もできて穏やかな生活を過ごさせている。家族の協力を得てワインやつまみ類を自室で楽しんだり、プランターで種まきから野菜を見事に育てる利用者があるなど、好きであった事の継続を可能としている。管理者は、利用者・家族、そして介護する職員の守り手として、ボトムアップの態勢で手腕を発揮している。関わる者皆が一つの「わ」となり利用者の生活を支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「わ」を掲げ実践に臨んでいるが全職員が実践できているわけではない。	開設時に策定した5項目からなる理念と「わ」を標榜し、事業所内要所へ掲示している。事業所は、関わる方々との「わ」を重んじ運営に臨んでいる。今後、当5項目の理念は行動指針として位置づけ、新たな理念の策定を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方とは電話で連絡を取っているが、コロナ禍にて以前のように行事に招いてはいない状況となっている。 今後は以前のように町内会の方を招いたり、町内会の行事への参加を行っていく予定となっている。	町内会に加入し、感染症の流行以前は活発な交流が行われていた。町内会役員とは電話連絡や運営推進会議議事録を届けるなどして、情報交換や今後の取り組みについて話す機会がある。収束状況や情勢を鑑みつつ、徐々に再開できるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて実施できないが今後は日々の散歩による町内の方との交流や、ボランティア受け入れで認知症への理解を深めていく予定となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて書面開催としており、書面配布時に疑義等について返信いただける書類を同封し、意見等を載せた場合には電話や書面にて回答している。 内容は職員で共有することでニーズの把握に努めている。	運営推進会議は書面にて開催し、構成メンバーと全家族に議事録を送付又は手渡ししている。議事に対する意見聴取の仕組みを整え、出された意見等は次回の議事録でフィードバックし、双方向的な会議に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市役所担当課へ適宜連絡を取り打ち合わせを行っている。	市の介護保険課企画・指導部署担当者とは、案件に応じ助言や指導を得たり、気軽に相談も可能であるなど良好な関係を築いている。感染症対策での保健所との連携や社会福祉協議会とは成年後見制度活用申請支援で協働している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年定められた回数の研修を実施し、身体拘束並びに不適切ケアについては事象の発生はない。 ただし、ケアの中でグレーゾーンに繋がる可能性のある声掛けは時折みられることから都度声掛けを行い、不適切ケアへ繋がらないように対応を行っている。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、3か月に一度「不適切ケア防止・虐待防止委員会」を開催している。これらに係る内部研修を年2回実施し、研修ごとに職員個々が研修報告書を上げている。玄関は24時間防犯上の理由により施錠しているが、利用者の出入りは職員の見守りで保証されている。	管理者は、グレーゾーン一歩手前の言葉にも厳しく点検を行っており、今後の研修の中で、事例に基づいたロールプレイングを行い、体感する中で更なる意識づけや気づきにつなげていきたいとの考えを示しているその取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年定められた回数の研修ならびに委員会の開催の中で、認識が風化していかないように職員への声掛けや、委員からの情報発信を行っている。		

ふれあいの里グループホーム野幌

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については御家族の高齢化が進んでおり積極的に発信を行っている。現在も利用中の方ならびに今後の利用を予定している方がいる状況で、施設側でも複数回の申請支援を行った実績がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に御家族が納得されるまで説明を行っている。また、締結後も都度疑問については確認し回答を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頂いた意見については常に会社へと伝え改善の為の情報としている。また、内容によっては行政へ相談し適切な対応について支援を仰いでいる。	利用者からの要望は買い物や欲しい物の依頼が主であり、家族に取り次いだり代行するなどしている。家族からは自由面会や外出の意見が出されており、その都度、説明を行ったり、家族からの意見を貴重なものとして事業所内に留めず法人に上申するなどしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が定期的にフロアをラウンドし職員とコミュニケーションをとる機会を設けている。その内容は常にエリアマネージャーと共有している。	管理者は、職員の個々の案件に応じて面談し、働きやすい環境を整えている。課題が提示されたり見受けられた際はユニットごとに聞き取りや相談をしようなど、職員と一緒に話し合いながら調整している。職員は管理者へ率直に話ができ、備品等でも改善に至っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて個々の職員と面談する機会を設け、職員が希望する働き方への転換等をすすめている。それ以外にも伺える範囲でのライフプランの共有や、この先の働き方について管理者と職員で個別に共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社としてのeラーニングや施設個別の内部研修を行いスキルの底上げを行っている。また、日常業務の中で指導者が他の職員からも状況を聞き取る機会を設けることで多角的な視点で評価するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期のオンライン会議にて管理者同士が情報共有を行っている。また、コロナ禍にて縮小しているが、グループ内の同種事業所を見学したり、地域ではグルーホーム交流会という取り組みに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時の情報を全職員で共有し、更にそれにこだわらずに入居後の御本人の様子や言葉を聞き、施設入居に対する不安や心配事を把握しながら御本人のペースで生活を行っていきけるように支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「まずは何でも言っていただく」という事を御家族へ伝えており、頂いた要望の中で出来ることや出来ないことを御家族と率直に話し合うことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関からの情報や御本人と御家族の面談時に得られた情報を基にニーズを把握し、把握した内容を基に御本人や御家族が望む支援を引き出せるように関わりを持つことを基本的考えとしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の上昇の中でニーズを掴めていない方もいらっしゃるが、御本人と相談をしながら自立した生活を楽しんでいると思っただけのように支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行える御入居者は限られているも、御本人のニーズを把握する際や御本人と御家族のニーズに差異が診られた場合等に、御家族からも御本人へアプローチしていただく等の機会を設けることで共に歩むことを支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて難しい部分が多く実施できていないことが多いが、御家族が知らない知人の方などからのコンタクト時等に施設が間に入ることで施設入居で途切れていた関係の再開に努めている。	面会は風除室でアクリル板パーテーション越しで行い、家族と利用者間の電話の取り次ぎや家族の祝い事へ感染対策を講じて参加した利用者がある。利用者の知人との関係継続にも努めている。事業所ブログや通信の発行により家族へ日常を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者同士の社会があると考えており、過度の介入はせずに職員は様子を見守り、トラブルになりそうな場合等の困っている様子がみられた場合に対応に入るようにしている。 また、御入居者が孤立しないように職員が間に入り会話を盛り上げたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても気軽に連絡を戴きたい旨を都度お伝えしていること、施設側からも落ち着いたころ合いを見計らい御様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	最初から選択を示すのではなく、御本人の言葉で思いを話していただければ傾聴して受け止めることを最初に行い、その後そこから得たものを具体化するための質問等のコミュニケーションを行っていくようにしている。	職員は生活の中で利用者が発する言動に関心を払い、一人ひとりの想いや希望、意向の把握に努めている。個々に把握した情報はミニカンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅や前施設での生活については細やかに聞き取りを行い、御本人が長年慣れ親しんだ生活の把握に努め、そこから施設での生活を構築していくこととしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	直ぐに介入するのではなく、御本人がどのような意図をもって何をしたいかを把握できるよう観察を行い、それを職員が共有し困ったときに適切な声掛けを行えるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーより職員へ重点的に情報収集を行いたい内容等を周知することで情報の質を向上させている。 また、問題発生時等はその日の勤務者でミニカンファを行い解決策の発見に努めている。	日々の記録やミニカンファレンスで情報を蓄積しモニタリングへつなげている。本人・家族の意向や医療関係者の助言等も反映させ、利用者のより良い生活に向けた介護計画を策定している。趣味・趣向等のアセスメントは長期目標ごとに更新し新たな視点を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有漏れがみられることはあるが、情報については都度共有することが大事であることを全職員が共通認識として持ち続けられるように適宜周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人的な面や制度的な面から全ての希望に沿うことは難しいのが現状となっているが、画一的な返答ではなく会社を含めて情報共有し都度解決策を御家族と話し合うことで多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源の把握については現状で来ているとは言えない状況である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に連携を取り、かかりつけ医以外の受診についても受診都度報告を行い情報共有を行っている。	協力医療機関(内科・歯科)による定期及び必要時の往診体制を整え、週に一度、看護師、歯科衛生士の訪問があり、適切な医療、健康支援に向け連携している。他科受診もその都度医療機関、家族と連携し対応している。	

ふれあいの里グループホーム野幌

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問相談にとらわれず、確認すべき事項が発生した場合は速やかに訪問看護師へ電話連絡等を用いて報告と相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近隣の病院からの入居相談についても積極的に取り組んでおり、それ以外にも近隣を含め入院の可能性が発生する病院については地域連携室等とのコミュニケーションは定期的に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が3以上と認定された時点、もしくは骨折や病気等で著しい心身機能の低下が予想される時点で御家族へ「延命治療について」「この先の施設生活の方向について」「考えられる御本人の心身状態の変化について」をKP様と話し合い、支援可能な御家族と共有いただく様に依頼している。	「ご利用者が重度化した場合の対応に係る指針」を定め、利用契約時に説明し同意を得ている。主治医の判断等により家族の意向を確認し、関係者間で今後の方針を協議し支援している。ぎりぎりまでの対応や自宅での看取りの希望を受け移行支援を行った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会という形では実施できていない。 施設で発生した急変を要する事態については「搬送判断に至るデータ等の理由」や「症状から考えられる急変リスク」等について共有出来るように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の日中と夜間を想定した総合避難訓練(災害想定による火災発生)にて最低限何をすべきかを職員全員に学んでいただく機会を作っている。	令和4年3月日中・11月夜間想定地震・火災避難訓練を通報等の初期動作の確認を含め実施した。地域協力者の参加は見送っている。階段使用時の避難のあり方を共有している。災害備蓄品を確保し自然災害発生時における業務継続計画を策定している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折行き過ぎてしまうことがあるが、会話の内容や場面、御入居者の気分に応じた言葉かけを行うことで人格の尊重と孤独感の低減に努めている。	利用者の動きの中で咄嗟に使ってしまう言葉に関し職員間で注意し合ったり管理者が喚起している。プライバシーや個人情報保護の遵守に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	急ぐあまり先に決めつけた言葉が出ることもあるが、基本的にはまず話を伺うという考え方でコミュニケーションをとる様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員体制が整わない中で努力はしているも、同時に複数の御入居者対応を行う際などは職員の方でタイミングを提案することがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の進行により自身の身だしなみ等について興味を持たれない方については清潔感を維持することは行っているも、それ以上のことは出来ないのが現状である。		

ふれあいの里グループホーム野幌

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく召し上がって頂けるように味付けやメニューの調整等を行っているも、個々の食形態に合わせた調理等で人員体制に余裕がなく楽しむところには至っていない。	季節感ある栄養バランスの良い献立である。出汁などの味付けや既存食材を工夫して炊き込みご飯、かき揚げ丼、圧力鍋で煮込み料理を提供するなど、美味しい食事を作り楽しみになるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量や栄養バランスについては入居後に改善した方が多い事、現状として栄養状態に大きなトラブルを抱えた方が居ないことから概ね支援できていると考える。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身である程度行っていただけでも、仕上げについて介助が必要な方で職員の介助を望まない方がおり、その方への対応については課題を残している。現状としては訪問歯科にて定期的に口腔内メンテナンスを行っていただき対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	望まれる時にトイレ誘導は行えているも、自立へ向けた取り組みについては人員不足によって現状では定時誘導のみに留まっている。また、平均介護度の上昇の中でオムツ類の使用量は増加傾向である。	排便は量や性状を5段階でチェックし、食事量と見合う内容についても検討し、必要時に医師の指示を受け対応している。尿意等の低減がある利用者へは定時誘導や特徴のある行動を見極めトイレ誘導を行い失禁を防ぐなど、個々の状態に応じた排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事水分の形態や量の変更による便性状変化等を予想して薬剤調整等を行っている。だが、便秘等はみられており全御入居者が苦痛の無い排泄を行えてはいない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員配置の面から全御入居者に好きな時に入浴を行っていることは出来ていない。出来ることとして可能な範囲で前日等から声掛けを行い時間の調整や苦痛の無い範囲で御入居者へ準備を行っていただいている。	入浴は午前の時間設定であるが、人員など余裕がある時は午後も声かけを行い対応している。自己決定できる利用者へは本人に入浴を判断してもらっている。通常より入浴日の間隔が空く場合は夜間に清拭や足浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自身で移動可能な方に関しては気分に応じて自身で決めて部屋等で過ごしていただいている。移動困難な方、訴えが難しい方については御様子を観察したうえで職員から提案したり判断し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が正しく薬の効能や副作用は理解できていない。また、服薬事故は散見されており薬に対する認識については不足していると考え、管理者より定期的に事務連絡等を用いてリスクの発信を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍にて衛生面という観点から他御入居者衣類等を含んだ洗濯物を手伝っていただくこと等、なかなか望まれるような日課活動が出来ていない。5類以降等の状況を見て拡大を予定している。		

ふれあいの里グループホーム野幌

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて全御入居者と職員を守る観点から全ての外出について支援は出来ておらず、やむを得ない場合のみの支援のみとなっている。感染対策との間で行えていない面が強いと考えられる。	感染対策を講じ、一昨年は紅葉見学を兼ねてトンデンファームへ、昨年春もドライブで花見に出かけている。車窓から季節の風情を味わい、茶菓を車内で楽しむなど楽しいひと時を過ごした。事業所前やベランダに出てプランター野菜の世話をしたり、極力外気に触れるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍にて訪問販売は中止となったこと、外出がほぼ出来ていないことからお金を使うことへの支援は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会に制約がある現状にて御家族には積極的に連絡いただいて問題ない事を都度伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々変わる御入居者の心身状況や社会関係性を考慮しながら職員で適宜検討し必要に応じて変更を行うことで「過ごしやすい場所」「安全な場所」の構築に努めている。ただ、対応としては後手となっている現状も見られている。	共用空間は広く、車椅子の利用者が自在に動ける環境である。ダイニングスペースでは調理する職員との会話を楽しんだり、リビングではパズルや新聞を読むなど好きな事をして寛いでいる。職員や利用者の季節感ある大作はその都度場を盛り上げている。エアコンや床暖があり居心地よく過ごせる設備を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御入居者同士の間関係などを逐一観察し、会話が生まれやすい配置、ストレスを感じにくい配置となる様に適宜調整を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド等の大型家具が入る為、完全に御本人の要望には添えていない現状はあるも、手になじんだものや新しい環境の中で御本人が出来るだけ納得できるように配置や備品を御家族と相談しながら行っている。	クローゼットとカーテンを備え付け、利用開始時に馴染みの物の持ち込みを依頼している。家具類や仏壇、鏡台、化粧品などが持ち込まれ、家族の写真なども飾られている。寝ながらテレビを見ることもできるよう本人と相談して模様替えするなど環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の案内は行っているも、施設内で感染症発生時に保健所指示にてに掲示物等はほぼ撤去しておりその後も継続している状況である。よって現状では個別性のある環境設定は共用部では出来ていない。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000199		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム野幌 2F		
所在地	江別市野幌代々木町56-9		
自己評価作成日	令和5年2月23日	評価結果市町村受理日	令和5年4月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvsoyCd=0191000199-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

楽しくふれあって・・・、一緒に生きて・・・を体験できるよう取り組んでいます。
現在はコロナ禍で実施できていませんが、R5年度以降は雪のない季節は戸外に出て散歩。
現在はコロナ禍にて実施できていませんが、R年度以降は外食に出たり、戸外で花見や焼肉をします。
優しく暖かく利用者様を見守れるよう寄り添います。

職員は階で分けておらず、休みや感染対応等の突発事態でも全員顔なじみの職員で安心感を持てるようにしています。
現在はコロナ禍にて実施できていませんが馴染みのボランティアさんと歌を歌ったり、談笑します。
協力医療機関により健康管理体制が整っています。食事も管理栄養士の立てた献立で安心です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「わ」を掲げ実践に臨んでいるが全職員が実践できているわけではない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の方とは電話で連絡を取っているが、コロナ禍にて以前のように行事に招いてはいない状況となっている。 今後は以前のように町内会の方を招いたり、町内会の行事への参加を行っていく予定となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて実施できないが今後は日々の散歩による町内の方との交流や、ボランティア受け入れで認知症への理解を深めていく予定となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて書面開催としており、書面配布時に疑義等について返信いただける書類を同封し、意見等を戴いた場合には電話や書面にて回答している。 内容は職員で共有することでニーズの把握に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市役所担当課へ適宜連絡を取り打ち合わせを行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年定められた回数の研修を実施し、身体拘束並びに不適切ケアについては事象の発生はない。 ただし、ケアの中でグレーゾーンに繋がる可能性のある声掛けは時折みられることから都度声掛けを行い、不適切ケアへ繋がらないように対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年定められた回数の研修ならびに委員会の開催の中で、認識が風化していかないよう職員への声掛けや、委員からの情報発信を行っている。		

ふれあいの里グループホーム野幌

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については御家族の高齢化が進んでおり積極的に発信を行っている。現在も利用中の方ならびに今後の利用を予定している方がいる状況で、施設側でも複数回の申請支援を行った実績がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に御家族が納得されるまで説明を行っている。また、締結後も都度疑問については確認し回答を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	頂いた意見については常に会社へと伝え改善の為の情報としている。また、内容によっては行政へ相談し適切な対応について支援を仰いでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が定期的にフロアをラウンドし職員とコミュニケーションをとる機会を設けている。その内容は常にエリアマネージャーと共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況に応じて個々の職員と面談する機会を設け、職員が希望する働き方への転換等をすすめている。それ以外にも伺える範囲でのライフプランの共有や、この先の働き方について管理者と職員で個別に共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社としてのeラーニングや施設個別の内部研修を行いスキルの底上げを行っている。また、日常業務の中で指導者が他の職員からも状況を聞き取る機会を設けることで多角的な視点で評価するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期のオンライン会議にて管理者同士が情報共有を行っている。また、コロナ禍にて縮小しているが、グループ内の同種事業所を見学したり、地域ではグループホーム交流会という取り組みに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時の情報を全職員で共有し、更にそれにこだわらずに入居後の御本人の様子や言葉を聞き、施設入居に対する不安や心配事を把握しながら御本人のペースで生活を行っていただけるように支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「まずは何でも言っていたく」という事を御家族へ伝えており、頂いた要望の中で出来ることや出来ないことを御家族と率直に話し合うことで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関からの情報や御本人と御家族の面談時に得られた情報を基にニーズを把握し、把握した内容を基に御本人や御家族が望む支援を引き出せるように関わりを持つことを基本的考えとしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護度の上昇の中でニーズを掴めていない方もいらっしゃるが、御本人と相談をしながら自立した生活を楽しんでいるように支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行える御入居者は限られているも、御本人のニーズを把握する際や御本人と御家族のニーズに差異が診られた場合等に、御家族からも御本人へアプローチしていただく等の機会を設けることで共に歩むことを支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて難しい部分が多く実施できていないことが多いが、御家族が知らない知人の方などからのコンタクト時等に施設が間に入ることで施設入居で途切れていた関係の再開に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者同士の社会があると考えており、過度の介入はせずに職員は様子を見守り、トラブルになりそうな場合等の困っている様子がみられた場合に対応に入るようにしている。 また、御入居者が孤立しないように職員が間に入り会話を盛り上げたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても気軽に連絡を戴きたい旨を都度お伝えしていること、施設側からも落ち着いたころ合いを見計らい御様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	最初から選択を示すのではなく、御本人の言葉で思いを話していただければ傾聴して受け止めることを最初に行い、その後そこから得たものを具体化するための質問等のコミュニケーションを行っていくようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅や前施設での生活については細やかに聞き取りを行い、御本人が長年慣れ親しんだ生活の把握に努め、そこから施設での生活を構築していくこととしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	直ぐに介入するのではなく、御本人がどのような意図をもって何をしたいかを把握できるよう観察を行い、それを職員が共有し困ったときに適切な声掛けを行えるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーより職員へ重点的に情報収集を行いたい内容等を周知することで情報の質を向上させている。 また、問題発生時等はその日の勤務者でミニカンファを行い解決策の発見に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有漏れがみられることはあるが、情報については都度共有することが大事であることを全職員が共通認識として持ち続けられるように適宜周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人的な面や制度的な面から全ての希望に沿うことは難しいのが現状となっているが、画一的な返答ではなく会社を含めて情報共有し都度解決策を御家族と話し合うことで多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源の把握については現状で来ているとは言えない状況である。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に連携を取り、かかりつけ医以外の受診についても受診都度報告を行い情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問相談にとらわれず、確認すべき事項が発生した場合は速やかに訪問看護師へ電話連絡等を用いて報告と相談を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近隣の病院からの入居相談についても積極的に取り組んでおり、それ以外にも近隣を含め入院の可能性が発生する病院については地域連携室等とのコミュニケーションは定期的に行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が3以上と認定された時点、もしくは骨折や病気で著しい心身機能の低下が予想される時点で御家族へ「延命治療について」「この先の施設生活の方向について」「考えられる御本人の心身状態の変化について」をKP様と話し合い、支援可能な御家族と共有いただく様に依頼している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会という形では実施できていない。施設で発生した急変を要する事態については「搬送判断に至るデータ等の理由」や「症状から考えられる急変リスク」等について共有出来るように努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の日中と夜間を想定した総合避難訓練(災害想定による火災発生)にて最低限何をすべきかを職員全員に学んでいただく機会を作っている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折行き過ぎてしまうことがあるが、会話の内容や場面、御入居者の気分に応じた言葉がけを行うことで人格の尊重と孤独感の低減に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	急ぐあまり先に決めつけた言葉が出ることもあるが、基本的にはまず話を伺うという考え方でコミュニケーションをとる様に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員体制が整わない中で努力はしているも、同時に複数の御入居者対応を行う際などは職員の方でタイミングを提案することがある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の進行により自身の身だしなみ等について興味を持たれない方については清潔感を維持することは行っているも、それ以上のことは出来ないのが現状である。			

ふれあいの里グループホーム野幌

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	美味しく召し上がって頂けるように味付けやメニューの調整等を行っているも、個々の食形態に合わせた調理等で人員体制に余裕がなく楽しむところには至っていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量や栄養バランスについては入居後に改善した方が多い事、現状として栄養状態に大きなトラブルを抱えた方が居ないことから概ね支援できていると考える。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身である程度行っていただいても、仕上げについて介助が必要な方で職員の介助を望まない方がおり、その方への対応については課題を残している。現状としては訪問歯科にて定期的に口腔内メンテナンスを行っていただき対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	望まれる時にトイレ誘導は行っているも、自立へ向けた取り組みについては人員不足によって現状では定時誘導のみに留まっている。また、平均介護度の上昇の中でオムツ類の使用量は増加傾向である。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事水分の形態や量の変更による便性状変化等を予想して薬剤調整等を行っている。だが、便秘等はみられており全御入居者が苦痛の無い排泄を行えてはいない。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	人員配置の面から全御入居者に好きな時に入浴を行っていただくことは出来ていない。出来ることとして可能な範囲で前日等から声掛けを行い時間の調整や苦痛の無い範囲で御入居者へ準備を行っていただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自身で移動可能な方に関しては気分に応じて自身で決めて部屋等で過ごしていただいている。移動困難な方、訴えが難しい方については御様子を観察したうえで職員から提案したり判断し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が正しく薬の効能や副作用は理解できていない。また、服薬事故は散見されており薬に対する認識については不足していると考え、管理者より定期的に事務連絡等を用いてリスクの発信を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍にて衛生面という観点から他御入居者衣類等を含んだ洗濯物を手伝っていただくこと等、なかなか望まれるような日課活動が出来ていない。5類以降等の状況を見て拡大を予定している。		

ふれあいの里グループホーム野幌

自己評価	外部評価	項目	自己評価 (2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて全御入居者と職員を守る観点から全ての外出について支援は出来ておらず、やむを得ない場合のみの支援のみとなっている。感染対策との間で行えていない面が強いと考えられる。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍にて訪問販売は中止となったこと、外出がほぼ出来ていないことからお金を使うことへの支援は出来ていない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会に制約がある現状にて御家族には積極的に連絡いただいて問題ない事を都度伝えている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々変わる御入居者の心身状況や社会関係性を考慮しながら職員で適宜検討し必要に応じて変更を行うことで「過ごしやすい場所」「安全な場所」の構築に努めている。 ただ、対応としては後手となっている現状も見られている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御入居者同士の間関係などを逐一観察し、会話が生まれやすい配置、ストレスを感じにくい配置となる様に適宜調整を行っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド等の大型家具が入る為、完全に御本人の要望には添えていない現状はあるも、手になじんだものや新しい環境の中で御本人が出来るだけ納得できるように配置や備品を御家族と相談しながら行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等の案内は行っているも、施設内で感染症発生時に保健所指示にてに掲示物等はほぼ撤去しておりその後も継続している状況である。 よって現状では個性のある環境設定は共用部では出来ていない。			

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム野幌

作成日：令和 5年 4月 12日

市町村受理日：令和 5年 4月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	グレーゾーン一歩手前の言葉についても管理者として注意し都度指導を行っているが、毎年開催している内部研修についてはマンネリ気味となってきた。	令和5年度の内部研修については事業所内で起こりえるシチュエーションにもとづいてロールプレイング形式の勉強会を開催することで認識の向上をはかる。	7月と1月に開催を予定している内部研修については、これまでのグレーゾーン手前の事例が悪化した場合を想定したロールプレイング形式の勉強会を実施する。	年度内
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。